



平成24年の 新年にのぞみ

広報担当副会長
玉城 信光

新年おめでとうございます。昨年は東日本大震災があり、今まで経験したことのないことが起きた年でした。また国のリーダーや組織のリーダーはどうあるべきか多くのことを教えられました。今年は昨年心に刻んだことを糧に新しい挑戦の年だと思っています。

今年はまた復帰40年の節目にあたり、沖縄のあり方をきめる新しい振興計画が策定される年です。TPP問題や消費税の問題、日本国のあり方、沖縄のあり方をきめる新しい年です。医療に関しては沖縄県医師会がリードする形ですすめていかなければなりません。長寿復活プランの策定、メディカルアイランド構想などが実現できると夢のある、若者が集い、万国津梁の言葉通り諸外国と医療の架け橋となれる沖縄ができあがります。

このような政策の実現のためには地域の医療がしっかりと確保されなければなりません。北部地区の産婦人科医師の確保をどのようにするのか、忙しい救急医療をどのように支えるのか。離島の医療や情報の共有をどのようにするのか。課題が多く解決の突破口はどこにあるのでしょうか。

医療人材の確保をするためには4月にオープンするおきなわクリニカルシミュレーションセンターの活用が欠かせません。これらを有効活用することで沖縄県の医療の質の底上げができると思います。さらには琉大などを中心にしながら、世界へむけた先端医療の推進を図りたいものです。大学院大学や琉球大学の活用と地域医療活性化プログラムを展開したいものです。

いつも新年にあたり夢は大きく展開するのですが達成できたことはどこまでか、反省しながら

らすすまなければいけないと思っています。

ことしもまた夢多き一年にしたいものです。

今年は私事ですが、第22回日本乳癌検診学会総会を11月に開催させていただきます。会員の皆様、沖縄県内の健診センターや検診事業を行っている皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



新年の挨拶

広報担当理事
當銘 正彦

「門松は冥土の旅の一里塚 めでたくもありめでたくもなし」

正月早々に白けた歌ではありますが、齢も還暦を過ぎると、一休禅氏のこの歌が妙に実感を伴って脳裏を反復するものです。昨年色んな事がありました。千年に一度と云われる東日本大震災の未曾有の恐怖、そして今なお収拾のつかない福島原発の怨嗟は続いているのですが、慌ただしい日常の中では、それすらもいつしか意識の彼方に僅かな痕跡を留めるばかりとなっています。この1年は、昔の10年～20年にも相当すると云いますが、恐ろしいまでのスピードで時の流れを感じます。時勢に付いて行けなくなりつつある自分の姿に、「年を取るとはそう言うことなんだ」と一人合点をしながら日々の“雑務”に身を処す暮らしぶりを、決して嘆きはしまいと心の奥に織りたたみ、また一つ新しい年を重ねました。

改めて、新年、明けましておめでとうございます。

さて県医師会の広報委員も確かにその“雑務”の一端ではありますが、こと広報委員会の仕事に関しては存外に楽しく務めさせて頂いています。その一番の理由は、会員の皆様がこよなく会報誌を愛して下さることを実感できるからです。毎月の会報誌を仕上げるには、会員の皆様

の絶大な支持が必要であります、皆様からの惜しみない協力が途絶えることは無く、本当に有り難いものと、常々感謝しているところです。

理事の方々の諸種の会務報告はさることながら、生涯教育やプライマリ・ケア等の学術論文、月間・週間お知らせコーナー等の時節的記事、様々なイベントや研究会の報告、随筆、発言席コーナー、本の紹介コーナー等々、多忙なことは承知で恐る恐る原稿執筆のお願いすると、会員諸氏の大方は労を厭わずに快諾して下さいます。広報委員会では、お寄せ頂いた原稿の割り付けや編集をさせて頂くのですが、会員諸氏の高い見識と幅広い教養に毎度ながら感服しています。また表紙を飾る写真を見てもご承知の様に、玄人はだしの写真を屢々頂いております。私共広報委員会は、本年も会員の皆様に愛される会報誌作りに精進したいと思いますので、益々のご協力、ご鞭撻をお願い申し上げます。

来る4月に予定されている診療報酬改定はどうなるのか、はたまたTPP参加を前面に打ち出した野田民主党内閣の医療政策は一体全体、何を目指すのか。見通しの効かない先行き不安な我が国の医療事情ではありますが、医師会の旗の下に団結して、真に国民の健康福祉に視点を据えた着実な医療施策の実現を勝ち取って行きましょう。その一助とならん為にも、与えられた広報委員会の大切な任務を、真摯に取り組んでいきたいと期するところです。本年も、宜しくお願い致します。



「新年のあいさつ！」
～「断捨離」と「耳順」～

広報副担当理事
照屋 勉

あけましておめでとうございます。2011年、最大の出来事は、なんとと言っても、「東日本大震災」・・・。「大地震」・「大津波」・「原発

事故」・「風評被害」・・・。「絆」というキーワードが飛び交う中で、ブータンを含む世界各国からの暖かい支援・早々にアクションを起こした多くのボランティアの方々の勇気・復興に立ち向かう被災した方々の真摯な態度・・・！。長期的な「支援の心」を持ち、「日本の力」・「地域の力」を信じ、「明日」を信じ、しっかりどっしり踏ん張っていくしかない！・・・と考えております。しかしながら、「TPP問題」・「普天間基地移設問題」・「円高ドル安問題」・「ギリシャ・イタリアの財政破綻問題」・「1,000兆円を超える我が国の借金問題」etc・・・。まだまだ、予断を許さない状況が続いている慌ただしい新年の幕開けです。

さてさて、小生の2012年のテーマは『断捨離 by やましたひでこ氏』・・・。「断行」＝入ってくる要らないものを絶つ！。「捨行」＝家の中にずっとある要らないものを捨てる！。「離行」＝物への執着から離れる！。『物の整理』は「心の整理」！ by クニエダヤスエ氏。心の混乱を整理して人生をリセット・リビルトする「ダンシャリアン（断捨離実践者!）」をめざしていきたいと思っております。ちなみに、「断捨離」で培った「ダンシャリアン」の能力・実力を「俯瞰力（高い所から見渡すことができる力!）」というそうです。

もう一つのテーマは、『耳順（じじゅん） by 孔子：「論語」・・・。「志学（しがく）」：吾十有五にして学を志す！。「而立（じりつ）」：三十にして立つ！。「不惑（ふわく）」：四十にして惑わず！。知命（ちめい）：五十にして天命を知る！。「耳順（じじゅん）」：六十にして耳順（したが）う！。「従心（じゅうしん）」：七十にして心の欲する所に従いて矩（のり＝限度）をこえず！。耳に順（したが）い、「傾聴力（野村監督が古田選手に贈った言葉!）」・「俯瞰力」を磨きながら、「素直な心・学ぶ心（by 松下幸之助氏）」でもう少し頑張っていきたいと考えております。本年も宜しくご指導・ご鞭撻・ご支援・ご協力の程お願い申し上げます。



2012年挑戦の年

広報委員（北部地区医師会）
石川 清和

激動の2011年が終わり、新たな挑戦の2012年を迎え、厳粛な気持ちで新年の御挨拶を申し上げます。

東北大地震、大津波、原発事故による放射能汚染で苦悩する被災地へ、沖縄からできる支援として新鮮な野菜を送る取り組みは、多くの方の賛同や県医師会の支援もあり9回にわたり、様々な野菜・果物・薬草を送り、釜石市のNPOサポートセンターを通じて仮設住宅の人々に配布されている。冬になり被災地は雪に覆われ一層新鮮な野菜が不足すると考えられ、今年度も継続して取り組んでいくつもりである。県医師会、会員の皆様のご支援をよろしく願います。

ここ数年来北部の医療はほころびかけている。平成17年に始まった産婦人科、小児科の医師不足は慢性化し、数年前からの内科専門医も不足している。北部地区医師会病院では腎臓専門医師の不足から透析がフル稼働できず、透析患者は中南部まで透析に通っている状態である。県立北部病院では内科医師の不足から、今年になり救急外来の深夜帯の縮小も始まった。北部地区の医師の高齢化もあり、今後救急外来の継続、いや病院の存続さえ危うくなりかねない状況である。様々な手段を講じて医師確保に努めているが、地方の医師不足は全国的な医師の偏在にあり、解決の糸口はつかめていない。

時間はかかるが、根本的な解決策は北部出身の医師を育成することにある。日本の基礎学力低下が問題になっているが、沖縄は日本で最下位であり、北部は沖縄の中でも基礎学力が低い。いや、北部の成績の優秀な児童は中南部の進学校へ流出しているため、実際の順位は不明である。北部地域での人材育成には小中高一貫の取

り組みが必要と考えている。PTA、行政、地域住民が連携し医学を目指す子供を育成する取り組みが必要始まっている。小学校での基礎学力を身につけること、中学校での自立した学習への取り組み、高校での難関な医学部への学習支援を計画している。また学力向上のためには「バランスのとれた食事」、「十分な睡眠を含めた規則正しい生活」、「脳を鍛え健康的生活を送るための運動」、「効果的な学習」、「次世代の宝物である子供を支援する家庭・社会」が必要である。

始まったばかりではあるが、地域の力を結集し、児童の学力向上と医療人の育成、さらに地域医療の再生に強力に取り組んでいきたい。



年頭の言葉

広報委員（中部地区医師会）
比嘉 靖

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

毎年、新年の御挨拶として年頭の言葉を考え、会員の皆様へ披露しておりました。三年前は沖縄の黄金言葉「あらたまの年に、炭と昆布飾て、心から姿若くなゆさ」、一昨年は「Yes we can!」、昨年は「新」を年頭の言葉としました。今年で4度目の新年のご挨拶となります。さて、旧年を象徴する言葉、文字を考えてみますと、昨年はあまりにもインパクトの強い年でした。「東日本大震災」以外のキーワードは全く浮かんできません。私の中での言葉は昨年「新」から、同じく「しん」と読む「震」となります。悲惨なイメージしか出てこないこの文字ですが、原義は「最も下（創め）に一陽が生じて、限りなく前進する様子」とあり、この文字こそ本年の年頭の文字に相応しいと思います。

旧年中は会員の皆様には医師会報へ温かいお言葉、ご投稿を頂き有り難うございました。本誌では、被災地への長きに渡った会員の皆様の

救援活動について早期に、詳しく、特集を組むなど、期待される広報誌を目指して常に「震:限りなく前進」し続けています。皆様からのコメントや皆様のご紹介などより身近な会報誌になれるように広報委員全員が努力しています。その中で私も「震」という年頭の言葉、文字を念頭において微力ながら会員の皆様に親しまれる会報誌の編集に携わっていきたいと思います。



新年のご挨拶
「メタボからロコモに・・・」
 広報委員（浦添市医師会）
 池村 剛

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願いいたします。

毎年、私の中では時の流れがますます速くなり、1年はあっという間に過ぎ去ってしまいました。昨年は3月に東北・関東大震災が発生し、2万人の方が犠牲になりました。一日も早い復興をお祈りします。

私の今年のキーワードは「ロコモ」です。というのはメタボ卒業に向けて3年前よりダイエットを開始し、ピークの時の83キロを昨年9月には73キロまで減らすことに成功しました。腹囲が88センチになり、もうすぐ卒業と意気込んでいた9月のある日、なんと、立ち上がり振り返ろうとすると足元がぎこちないのです。その上、鏡には上半身の筋肉がすっかり落ちてしまった身体が写っています。その時、将来のロコモティブシンドローム対策にプチ筋トレを決意しました。

腹筋はやっと5回、腕立て伏せ3回（肩が痛い）、懸垂0回（まるで上がらず）、スクワット20回（膝は大丈夫）、すっかり負荷のかけられない身体になっていました。あれから3ヶ月、正月を迎えて少しましになり（腹筋の回数が30回に増え）、腹筋の効果が現れたのか、腹囲

が86センチになりました。血液検査も異常なく、メタボ卒業目前です。今年は1年かけて、腹筋100回を目標にマッチョを目指します。私と同世代の先生方は、早くメタボを卒業しロコモに視線を移しましょう。

今年も、皆様方にとって良い年でありますようお願いしております。



今年は黄色です

広報委員（那覇市医師会）
 白井 和美

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

さて、今年の表紙の色は黄色です。写真が引き立つ色として決定しました。

皆様も良くご存知の通り、黄色は光の3原色の一つで、有彩色の中で一番明るい色です。知性を意味し、人に喜びを与えてくれる色です。また見ているだけで心を弾ませ、楽しい気分にさせてくれます。その明るさのため、光や太陽、黄金を連想させます。心理効果としては集中力を発揮させ、判断力、記憶力を高め、注意を促し、気分が明るくなります。冷静な判断が必要な時や記憶力を高めたい時にファッションのアクセントカラーとして黄色を使うと効果的です。一方、甘え、依存、求愛の色でもあり、幼児が好むため子供っぽいイメージもあります。食品では薄い黄色は甘味を、黄色は酸味を、濃い黄色は辛味を感じさせます。黄色が好きな人は新しいことや冒険好き、温かみのある広い心の持ち主で、自由を好み前向きに生きる人だそうです。誰とでも打ち解ける才能の持ち主でもあります。思い当たる方はいらっしゃいますか？

古来中国では、黄色は五行思想の中央を示す土に通じることから高貴な色とされ、皇帝だけが使用できました。琉球王朝においても紅型染

めの黄色は王族のみが着用できたことは良く知られています。仏教やヒンドゥー教、道教、儒教でも黄色は最高色として崇められています。一方、キリスト教では、イエスを裏切ったイスカリオテのユダが黄色い服を着て描かれるように、裏切り、虚偽、卑劣な行為を象徴する色とされています。キリスト教徒の多いヨーロッパでは今でも黄色はあまり良い印象をもたれませんが、北欧など太陽への憧れが強い地方では抵抗感は少なくなります。しかし、イスラム教では黄色は死の象徴です。因みに、日本では冠位十二階で、7番目の大信の位が黄色で表されていたそうですが、律令時代以降は無位の者の袍の色となりました。

さて、イエローリボン活動は、世界子宮内膜症協会が提唱する子宮内膜症啓発活動のシンボルマークですが、あまり知られていないようです。アメリカでは戦地へ赴任した兵士の無事を祈る印として使用されています。国内では、障害者権利条約の普及を目指す日本障害フォーラムや、いじめ撲滅ネットワークの「Stop Bullying～いじめをとめよう～イエローリボン・キャンペーン」のシンボルマークとしても使用されていましたが、東日本大震災・福島第一原発事故後は脱原発運動の象徴として認識されつつあります。

ともあれ、黄色は会員の皆様の知性の粋が掲載される会報に誠に相応しい色です。本年もご協力よろしく願いいたします。



イッペー

広報委員（那覇市医師会）
玉井 修

新年明けましておめでとうございます。

庭に一本のイッペーの木があります。小さな

苗木を植えて、1年ほどは何の問題もなく、すくすくと成長して2mほどに成長していました。黄色い可憐な花を咲かせるとの事で、大変楽しみにしておりました。しかし、昨年接近した大きな台風2つの影響で全ての葉が落ち、塩害もあって枯れ木同然の状態になってしまいました。無残な姿に、このまま枯れてしまうとばかり思っていたのですが、秋になって緑の若葉が小さな手を太陽に広げるように何枚も芽吹いてきました。瑞々しい若葉が太陽に照らされて成長してきました。枯れた様に見えた木の中にも新しい葉を広げる生命が残っていたのですね。そう言えば東日本大震災の避難所にも多くの桜の木が花を咲かせていました。眼下に広がる惨憺たる大槌の街を見下ろしながら、桜の花が沢山咲いていました。命というものは儂くもあり、逞しくもあるのですね。ふと、自分の手を見ると、もうすでに約50年僕と一緒に生きてきた自分の手も、年をとり傷みながらも、赤い血がドクドクと通っています。今後どれくらいこの手は私と伴に生き続け、何を感じ、何を成していくのだろうか。この手に触れる多くの事を大切にしよう。陽に自分の手をかざしながらそんな事を思いました。



感謝

広報委員（南部地区医師会）
玉城 清酬

明けましておめでとうございます。去年は本当に有難う御座いました。感謝の気持ちでいっぱいです。今年もよろしく願い致します。振り返ってみますと今年も多くの人と知り会えた最高の年でした。さて、今年も去年の政治・経済・社会・医療業界・その他の出来事に関し、聡明な先生方の様々な分析、意見が拝見できると思ひ楽しみにしています。私も少し自分なり

の見方で昨年を振り返り、今年の抱負を考えてみたいと思います。

県医師会の広報委員としての立場上、勉強する？させられる？ことが沢山ありました。もともと読書は斜め読みで、熟読することは無かったのですが、査読はそういうわけにはいかず、読み終えた頃、締め切りが終わっている事が何度もありました。広報委員としてお手伝いぐらいはできるだろうと思っていたところが、邪魔してしまっているのではないかと思う事も多々ありました。色々と反省しておりますが、昨年は昨年、今年は心機一転頑張ってみようかと思えます。昨年は本当に忙しく、会議その他で10時過ぎに帰宅する毎日で、それから食事するため、寝るのが1時頃でした。朝は大嫌いなNAHA マラソンの練習で5時半に起きるため、睡眠時間が4時間半ぐらいでニブヤーの私としては大変な毎日でした。でも夢遊病者のように目を瞑ったまま走り始めるため気が付いたら家についているといった具合で特に苦痛はありませんでした。当然車の走らない歩道しか走れません。フルマラソンで連続20回以上完走し1回もリタイアしていません。そろそろ止めようかなとも思うのですが、患者様にいつも自慢しているため、最近では「今年も出られるんですか？頑張ってください。」と言われ「勿論です。今年も頑張ってください。」とつい口が滑り、出場する羽目になりました。「嘘つきは医者の始まり」と先輩から教わりましたが、口は災いのもとですね。大嫌いなフルマラソンですが昨年も出場しました。仕事の面でも大幅に飛躍できそうですが、あまり無理せずに行きたいと思えます。会員の先生方も医者の無養生と言われられないようにぜひご自愛下さい。

今年もよろしく願い致します。良いお年でありますように。



新春の挨拶

広報委員（国療沖縄公務員医師会）
久場 睦夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は3月11日の東日本大震災、それに続く原発事故、紀伊半島の豪雨災害と未曾有な惨事が続発しました。被災地の方々へ衷心よりお見舞い申しあげたいと思えます。

また震災が発生するや間髪を入れず厳しい寒気の現地へ飛び診療救援にあたった先生方には深く敬意を表します。誠にご苦労様でした。

さて医療界は「医師不足」や「医療費抑制」は未だ続いています。その中で各医療機関における女性医師の勤務環境整備や県による専門医等人材育成、救急勤務医支援、新生児医療担当医や産科医確保事業等の改善施策も進みつつあり、「医師不足」については希望がもてるものと思えます。また地域医療再生計画での病診連携の向上施策、琉球大学に来春完成の「おきなわクリニカルシュミレーションセンター」が大きく期待されます。医療保険については診療報酬と介護報酬の改定がなされつつあるようですが、是非とも医師会の要望が強く反映されるものになって欲しいものです。

旧年中は大きな災害が続き、学会や講演会活動にも多大な影響がありました。本年は被災地域の早急な復旧とともに平安な年であるよう祈念してやみません。



備えあれば憂いなし

広報委員（琉球大学医師会）
金谷 文則

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。新春から余り明るくない話で恐縮ですが、昨年（平成23年）の東日本大震災で学んだ教訓について考えてみたいと思います。昨年3月11日には、私は北海道のルスツで開催されたEOTS（整形外科外傷シンポジウム）に参加していました。ルスツでは全く揺れを感じず、TVで見た津波の映像を当初はCG（computer graphics）かと思ったくらいでした。EOTS参加者の多くは緊急・外傷の専門家であり、皆なんとか職場に復帰しようとしたのですが、電話も繋がらず飛行機の運航状況もわからないため、その晩は全員ルスツで過ごしました。

未曾有の大震災に原子力災害も加わりましたが、被災地の皆様やボランティアの皆様のひたむきな姿勢には心を打たれました。私も新潟大学卒業後は、山形、秋田、福島、栃木で研修しましたので、東北の皆様の我慢強さ、粘り強さは知っているつもりです。今回の東日本大震災で被害に遭われた皆様の一日も早い復興を祈念いたします。沖縄県医師会や琉球大学医学部も早期から救援を開始されたことに敬意を表します。今回の大震災では整形外傷に対して救援を要した被災者は阪神淡路大震災時に比べて少なく、沖縄県整形外科医会としては寄付金による復興支援を行いました。

今回の東日本大震災は巨大地震に大津波が加わった未曾有の天災であり、初動のある程度の遅れはやむを得ないとしても、その後の支援体制に疑問を感じます。外国のメディアに指摘されるまでもなく、政府の後手後手の対応には怒りと無力感を覚えました。政府は被害の程度が把握できないと言っていました。偵察衛星からの映像で翌朝には孤立していた集落や地域の

把握は可能であったはず。軍事衛星の映像公表は無理であったとしても、Google（商業衛星）でも映像は見られたのでより迅速な支援は可能と考えます。

中央政府各省庁の縦割り行政は責任の所在を分かりやすくしている反面、前例のない緊急時の対応は遅くなります。沖縄県でも災害時の対応、避難計画の設立や病院資材・薬品の備蓄について今こそ検討が必要です。今回の震災に対する補正予算は審議されていますが、大災害時の対応についての法案は提出されていません。最近全員の刑が確定したオウム真理教が小銃を所持していても現在の銃刀法の規制が拳銃に限定され小銃が含まれていなかったため、当局が規制に苦慮した経緯がありました。20年が経過しましたが、未だに小銃の所持を規制する立法、法改正は成立していません。本稿を執筆している11月末には災害復興に向けての補正予算が審議されていますが、防災の観点からの法案は未だ提出されていません。中央政府の対応は遅すぎるので、災害対策に対しては県および自治体、病院毎の対応が急務と考えます。「備えあれば憂いなし」を銘記したいと考えています。本年もよろしくお願い申し上げます。



頭の体操

広報委員（沖縄公務員医師会）
金城 正高

2012年が始まりました!!

年頭に当たり毎年のことではありますが、これまでとは違う“自分探し”への新たな気持ち湧いてきます。「今日は未来への第一歩」毎日を生懸命泥臭く邁進したいものです。

そんな新年の決意を心に刻む慣習に「書初め」があります。私が小学生の頃は冬休みの宿題の定番でした。高学年になると小難しい四字

熟語をあえて選び、悦に入ったものです。四字熟語といえば、力士が昇進受諾の口上のなかで何を語るかがよくマスコミの話題に上がります。日本人って好きですよね…この微妙なニュアンスの蘊蓄が。

さらに世相を反映した「創作四字熟語」なるものが私達をうならせます。

『帰路騒然（理路整然）』：震災・台風時の帰宅困難の状況。『電考節夏（電光石火）』：電気についてよく考えた節電の夏。『年々幸々（年々歳々）』：毎年のように総理大臣が代わること。その他にも『一松懸命（一生懸命）』『i 悼之意（哀悼之意）』『欧州憂慮（欧州ユーロ）』などその意味するところが伝わってきます。やはりこれは、日本人特有の感性のなせる技だと感じます。同様に「サラリーマン川柳」や1年を締めくくる「漢字一文字」の中にも、凝縮された世界観だからなのか、時には失笑させられたり時には深く考えさせられたり…受け手によってイメージの広がり方は様々なのかもしれませんね。

みなさん既にご存知かとは思いますが、会報誌巻末に「はがき」が綴じられています。日本医師会生涯教育講座の回答、本誌ならびに本会への感想・質問・提案等の募集用となっています。せっかく「はがき」があるのですから、会員の皆様から「今年の漢字一文字」やテーマに沿った「〇〇川柳」「創作四字熟語」など募集してみても楽しいかもしれません。多くの会員の皆様が参加し会報誌を盛り上げていけたらと試行錯誤の広報委員です。

是非忌憚ないご意見、アイデアをお待ちしております。その際には「巻末のはがき」をご活用下さい。

今年はオリンピックイヤーであり沖縄復帰40周年でもあります。

きっといろいろなドラマが繰り広げられることでしょう。昨年の大震災から多くのことを学び現在があります。その足跡・歴史の記録、そしてこれからのこと…2012年の幕開けに際し、会報誌の果たすべき役割を再認識しております。今年もよろしくお願い致します。



卯年から辰年へ

広報委員（那覇市立病院医師会）
旭 朝弘

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災、その後の原発事故と大きな災害があり、忘れられない年となりました。個人的にもいろんな意味で大きな節目の年であったと思っています。

そんな中、ささやかな楽しみと逆に心配の種を与えてくれたのが、うさぎでした。昨年はずうと卯年でありました。だからという訳ではありませんが、ひよんなことから、家でうさぎを飼うことになったのです。子供達が自分で世話をすからと学校からもらってきました。全身が真っ黒で、目がくるくるとかわいらしいうさぎでした。しかし、子供達は飽きやすく、世話をしていたのは最初の2週間くらいでした。息子と二人でうさぎ小屋を作り、家の片隅から裏庭に居場所を移してからはうさぎの世話はほとんど私一人の担当になりました。世話をしていく内に、狭い小屋はかわいそうと思い、フェンスを扉変わりにして放し飼いにしました。手に餌のペレットをもってうさぎに近づくとちゃんと手から餌を食べてくれました。最初は裏庭に留まっていたのですが、その内、フェンスの横の隙間から逃げ出したり、穴を掘っては扉をくぐったりと人間とうさぎの知恵比べが繰り返されました。うさぎの穴掘りはすざましく、掘った土が山の様になり、裏庭は穴だらけになってしまいました。裏庭を出ても、うさぎは縄張り意識が強く、道を渡って逃げていくことはしません。敷地内か隣の庭に留まっています。しかし、隣の庭を穴だらけにすると困るので最終的には自分の実家で飼ってもらうことになりました。

ペットがいなくなった今年は、子供達が以前から欲しがっていた犬を飼うことになりそうです。

今年は辰年。竜の様に勢いよく羽ばたく明るい年であってほしいと願います。